

フィールド科学系部門の活動報告

フィールド科学系部門

東脇 隆文, 宇都 武司, 山口 信雄

1. はじめに

2015 年度技術センター研修会にて発表したフィールド科学系部門の活動 3 題について報告する。

2. 概要

最初に技術職員が企画側として参加している広島大学総合博物館フィールドナビにおける活動を紹介し、次に部門内においてまとめたヒヤリハット事例および事故、その対策に関して発表した。最後にフィールド科学系部門で独自に行われている勉強会についても紹介した。



図 2. フィールドナビの様子と観察された生物
学外から親子連れでの参加も多い

3. 活動報告

3-1. 広島大学総合博物館フィールドナビ

総合博物館が主催するフィールドナビは、日本でも有数の広さを誇る広島大学東広島キャンパスの自然や歴史、そこに生きる動植物を学ぶことによって、キャンパスの維持・管理等について考える活動である。フィールド科学系部門の一部は、この活動の立案・準備・実施に積極的に関わっており、その中で植物管理室が中心となって整備しているピオトープも活用されている。その時に撮影したフィールド系らしい自然の風景を交えながら、野外活動特有の注意点や参加者の生き生きとした様子などを紹介した。

2012年6月16日 第30回フィールドナビ
・ピオトープで遊ぼう
～初夏の親子ピオトープ観察～



図 1. ピオトープ看板など

3-2. 部門内におけるヒヤリハット事例および事故の紹介

業務を行う上でまず考えなければならないのは、安全確保についてである。いくら技術職員としての経験や能力が高くてもミス一つで重大な事故を起こす事もある。これによって自分若しくは他人を負傷させ心身とも甚大なダメージを負う事になる。

フィールド科学系部門では野外活動など部門ならではの特徴的な業務が行われている。これらに伴う事象の場合、通常の業務と比べて外的な要因が絡んでくる割合が高いと考えられる。よって不可避である外的要因の干渉に対して実際にどう対応するのかなど様々な例を基に検討する必要がある。

残念な事に部門内では幾つかの事故が報告されている。よって部門構成員の安全意識の向上を推進する活動は急を要する。その方策として実際の事例を基に部門内勉強会などで検討を行い構成員の安全意識の向上を図りたいと考えている。

今回の発表では、部門構成員の安全意識向上をめざす活動の一環として収集したヒヤリハットおよび事故 11 例を紹介した。

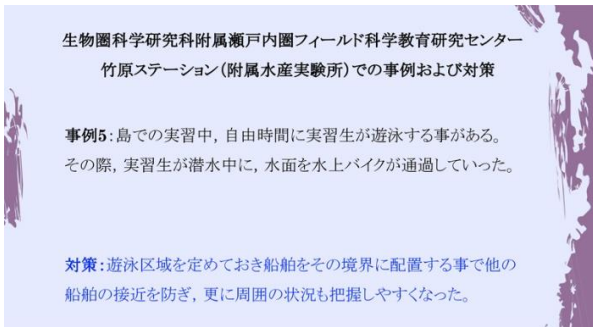


図 3. ヒヤリハット事例 1:水産実験所

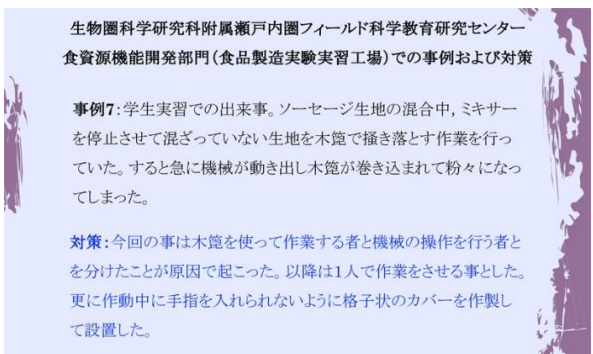


図 4. ヒヤリハット事例 2:食品製造

3-3. フィールド科学系部門勉強会の紹介

フィールド科学系部門は配属先が多数の部署(農場・食品実習工場・植物管理室・精密圃場・竹原ステーション・両生類研究施設・微生物遺伝資源保存室・宮島自然植物実験所・向島臨海実験所)におよび遠隔地も含むため、部門内の職場を相互に理解することが非常に難しい部門である。

そこで勉強会を各所持ち回りで年一回開催し、お互いの業務・職場環境の理解を深めつつ部門内の交流を図っている。現在までにほぼ配属先を一巡し、部門内では相互理解が確実に深まっている。二期目はこれまでの成果を踏まえながら、勉強会で得られる知識や経験を各部門員の配属先にフィードバックできる勉強会へと発展しつつある。

今回の発表ではその様子を紹介し、勉強会の中で行われた討論の概要についても公開した。



図 5. フィールド科学系部門勉強会:ががら山
現場と生物保全手法の確認



図 6. フィールド科学系部門勉強会:農場
使用する大型機械の紹介および最新の自動搾乳機
と従来型搾乳機の比較

4. おわりに

フィールド科学系部門は配属先が多岐におよび、活動範囲は広大な敷地・地域・多様な生物の管理や探索を含む。そこで行われる業務の特徴や危機管理は各部署に特有なものに見えるが、共通性も多分に含まれており、共有化して掘り下げることで新たな視点からの発見も多い。交流による知見・技術のフィードバックは技術センターの設立理念に沿うものであり、組織的に育てるにふさわしいポイントであると思われる。今後も部門の内外を問わず交流を進め、広島大学のみならず社会に広く資する技術職員の集団となれる環境を整えていきたい。